

土作りにこだわったにんにく栽培

新規参入 就農5年目



吉本 寛之 (六戸町)

就農のきっかけ

以前は、県内のエネルギー関連会社に勤務していました。東日本大震災後、「明日、自分の身や社会がどうなるかなんて誰にも予想できないし判らない」と思い続けてきたこともあり、自分のやりたいことをやろうと決断し、平成29年に退職しました。農業には以前から興味があり、家庭菜園でにんにくなどを栽培していました。同世代の地元農家と話をするたびに農業に挑戦したいとの思いが募り、知り合いの農家の手伝いをしながら野菜の栽培方法などを勉強し、平成30年に本格的に営農を開始しました。

○就農にあたっての課題

主力であるにんにくを栽培するための機材、トラクターや植付機、テラー等は、退職金で購入しました。親元就農であれば、親から農業機械を借りることもできますが、非農家出身の場合は大きな初期投資が必要となるので、負担が大きく大変だと思います。

農地は、幸いに農地中間管理機構や農業委員会を通じて借りることができました。

○活用した就農支援策等

令和元年度から農業次世代人材投資資金（経営開始型）の交付を受けており、今年度が最終年となります。

他の事業の活用は無く、必要な資金は貯蓄で何とか賅っています。

就農を考えている方へのメッセージ

どんな作物（作業）が自分に合っているのかは、やってみなければわかりません。私は、近隣の様々な農家の手伝いを通じて、作物によって、腰を曲げる作業が多いとか、力仕事が多いなどの特徴を知ることができました。自分に合った作物を探すことが農業を続けるうえで大切な要素の一つだと思います。農業では、栽培技術や販売先などで行き詰まることがあります。行政機関やJAなどのほかに、相談できる人がいれば助かるので、地域における人とのつながりは、とても大切だと思います。

自己紹介

- 氏名…吉本 寛之さん（50歳）
- 出身地…青森県六戸町
- 経営の概要…個人経営
 - ・経営面積…畑1ha 水田0.5ha
 - ・作付品目…にんにく70a、にんじん30a、水稲50a
 - ・販売先…JA、十和田地方卸売市場

就農してからの課題や想い

○取り組み

作物の主な出荷先はJAですが、にんにくは、3分の2を市場へ出荷しています。農業の基本は土作りだと考えており、米ぬかと堆肥に化学肥料を混ぜて発酵させた肥料を作り使用しています。化学肥料や農薬（殺菌剤・殺虫剤）は極力最小限の使用に留めたいと毎年試行錯誤しています。植物にとって良い土とは何か、どうすればより良い土壌環境になるのかを考え、良い土を維持する努力を重ねていきたいと思っています。

○就農してからの課題

にんにく栽培が経営の中心となりますが、経営規模が小さいことから、面積拡大に取り組みない限り、これ以上、所得の増加が見込めないことや、他の野菜等を作付けできていないことです。

○課題の解決方法

当町では、主力となる農業者の年齢は70代から80代となっており、後継者がなければ耕作放棄地となる農地が増加すると考えられます。所得の向上を図るためには、経営面積の拡大が必要であることから、今後、高齢などの理由により離農する農家から農地を借り受け、経営面積を拡大する、野菜の種類を増やし、価格変動リスクを分散するなど、安定した営農を目指していきたいと思っています。



【丁寧な作業でにんにくの根と外皮を除去し整えます】